



粘土団子

粘土団子とは？

自然農法家，福岡正信氏発案。粘土に数～数十種類の種を混ぜ、団子状にして乾燥させたものを地面に播く種まきの方法。ただ土の上に置くだけで、水も肥料も必要としません。低コストで大きな効果を期待できるこの手法は既に インド、フィリピン、ギリシャ、タンザニアなどで効果を上げています。

その秘密は・・・

- ・ 粘土は細菌の繁殖を防ぐと同時に、発根に必要な養分を含みます。
- ・ 種子を粘土で覆うことにより鳥や虫のえさになることを防ぎ、種子自身を乾燥から守ります。
- ・ 球形にすることにより割れにくく、地面と接した1点に日中と夜との気温差で生じた結露により水分が集まり、発根させるという仕組みとなっています。
- ・ 1つの粘土団子には2，3粒の種子が入るように作り、1カ所に数十～百種類の種子を播きますが、その土地にあった種子だけが発根し生育します

粘土団子のしくみ



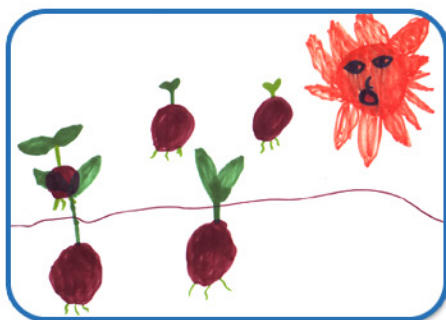
乾燥させた粘土団子を
地面にまく



結露した水分が地面と
接した一点に集まる



その水分を吸い、
地中深く根を伸ばす



その土地にあった種子だけが発根



乾燥地帯に森林が増える

地球すべてが笑顔に！

